地域おこし協力隊活動報告

木村智佳子

今季も、また育苗失敗したかも・・・と一時思うしかないほど、そして近所の人にも心配されるほど、途中貧相な苗姿になっていたササシグレもなんとか持ち直して、5.5 葉期を過ぎて成苗までもっていけました。 田植えまつりが無事にひと段落して、この記事を書いています。

鏡のように澄んだ田んぼの水面に、青空や山間風景が映し出される “早苗田”は、思わず目を奪われる美しさ。まだ苗が小さい今の時期にしか見られない絶景。

美しい棚田の風景は、はじめから与えられた日本の自然ではなく、長年にわたって人々が作り続けてきた国宝ともいえる風景だと思います。

田んぼの隅に置いてある補植用の苗には、今まさに羽化の最中のヤゴたちがたくさんいて、水路の陰には水辺が大好きなヤマカガシがおとなしく涼んでいたり。田んぼも畑も、賑やかで愉しい季節です。

田んぼの中で隠れているつもりのウシガエルは、手ですくってもなぜか脱力状態で警戒心ゼロ。生き物たちの観察ばかりしてないで、早く草刈りをしなければ、と思う日々。

この 2023 年 8 月 31 日をもって任期は無事満了し、地域おこし協力隊という立場で記事を書くのもこれが最後になります。2020 年 9 月 1 日に信里に来て以来、地域の方々に暖かく受け入れていただいて、近所の人たちには本当に親切にしていただいて感謝しかありません。荒地を開墾しながらなんとも愉快な 3 年間が過ごせました。もうしばらくは、信里に住み続けようと思っています。

信里まつりについて

コロナの影響でできない時期があったので、いろいろな活動が制限されて展示物や発表するものが激減して淋しくなっています。

地域委員会でも盛り上げようといろいろと考えています。社会福祉部会に協力してもらい地域の皆さんが趣味で作っている物や、集めている物等を展示することを提案します。御協力お願いします。

担当　　野沢　０２６－２２９－３５１１
◎　お電話下さい。お待ちしています。

信里フェスティバル2023
開催予定　10月29日（日）
午前　信里まつり
午後　小山清茂記念展示室記念コンサート♬

信里だより

令和５年度　**令和５年８月１日発行**
第２号　<発行者>信里地域委員会 調査提言部会

信里を知ろう‼
～地域で活動している魅力的な人たち～

信里小学校創立１５０周年を来年に控えて

信里小学校　PTA会長　野澤昭宣

昭和初期頃の信里小学校

日頃は信里小学校のPTA活動にご協力頂きましてありがとうございます。コロナ禍による制限活動も今年度の5月より感染症法の5類感染症の扱いとなり、皆様の活動範囲も広がり多くの人との繋がりや会合が増えたことと思います。

信里小学校PTAとしても、3年振りにPTA総会をPTA会員全員と対面で行い、今後の行事についても世間一般同様に進めていく中で、このコロナ禍で始まった良きモノ（行動）は継続し、古きモノ（風習）は継続して見直し選別する所存でございます。

さて、信里小学校でも、その古く良きモノである周年記念を来年令和6年2024年に控えております。

近隣の学校では通名小学校、塩崎小学校、共和小学校が今年度いち早く150周年の行事を大なり小なり予定していると耳にしております。
遅ればせながら、信里小学校PTA　としても周年行事について、現在信里小学校へ通う児童並びに親御さんの意見を聞きまして、この学校の節目を、地域、現PTA会員及び暦年PTA関係者の皆様と手を携えて、どのような事をすべきか考えて参りたいと思います。

地域にお住いの方たち及び小学校へ縁のある方のご意見とご協力をお願いいたします。

戦中戦後　小学校時代の思い出

有旅第二　田島　敬久（昭和２４年度信里小学校卒業）

私達８５歳を過ぎた世代は、戦前に生まれ、　戦中戦後の食糧難時代を経験し、当時としては戦勝国アメリカの物心両面の援助を得て復興をなし、やがてバブル時代を経験したいわば激動の時代を生き抜いた世代です。小学校入学は昭和１９年。太平洋戦争の敗色濃厚な時でした。

翌年８月終戦。そんな時ですから学校で、勉強した記憶は皆無に等しく、登下校時、休み時間は何しろ自由奔放に過ごしていました。

小学校１年２年の思い出としては、壊滅状態の都会から逃れて信州にもたくさんの子供が疎開児童として信里にもきました。教室は立錐の余地もない程の状態でした。
忘れることの出来ない３つのことがあります。

１つめは、トトロ池西側の小高い道の下に手掘りした３つの防空トンネルへの避難訓練。

２つめは、爆撃機Ｂ２９の夜間鳴り響いた不気味な飛来音。

３つめは、８月１３日長野市街地への空襲があり、村のお堂への坂道を駆け上がって見に行こうとしたとき上空５００m位の所で、爆撃機３機が長野方面へ向かって飛んでいきました。足がすくみ怖かった強烈な記憶です。

２年から３年生になったころは不衛生な家庭環境で、下着にも体にもシラミやノミが巣食い、大変でした。特に髪の毛にシラミの卵が着き、そのための検査や駆除がありました。
その駆除のためにＤＤＴやＢＨＣなど発がん性の農薬を頭から散布されたこともありました。本当に恐ろしいことです。

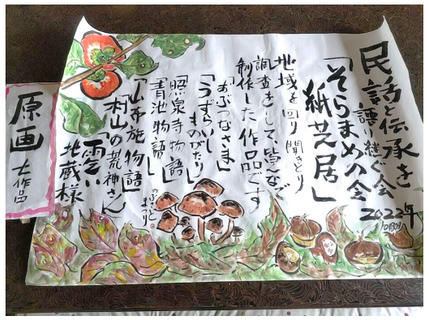
楽しかった思い出もあります。学校での昼休みにはヒンカラガキ、メンコ。放課後には自動車池で水泳、神社で棒遊び。冬には昭和池でゲタスケート、向坂（ムコウザカ）でのスキーやソリ、思いつくままたくさん遊びました。女子はオハジキ、お手玉、あやとりなどで遊んでいたようです。

私の小学生時代は貧しくとも、たくましく生きた時代だったと思います。

そら豆の会に参加して

粒良田　小池とよ子

　きっかけは2015年に発行された「篠ノ井の民話と伝承」の中に信里の民話が取り上げられることになり挿絵を頼まれたことからでした。信里には素晴らしい民話が残されています。貴重な民話を風化させることなく子どもたちや地域の方々に伝えていけたらと思っている方が多くいるということも知りました。
　私は長年趣味として絵手紙に取り組み新聞などにも投稿してきていました。絵手紙の持つ和紙に顔彩で描く雰囲気は、信里の民話の世界観に良くマッチすると、創作の島田利男さんや読み聞かせグループの方々の目に留まりました。信里の民話を作品にするには、島田さんの文に私が絵を描き、それを朗読するという紙芝居の形式がふさわしいということになりました。こうして結成されたのが「そら豆の会」です。会では、地域に伝わる民話を掘り起こす活動から始め、７つの紙芝居作品を完成させました。会ではこれまで主に「信里まつり」で発表してきました。今後は各地域の集まりや、外出が困難な方のところにも出向いて鑑賞していただくことも考えています。



　こうして振り返ると、会の活動にはたくさんの思い出があります。仲間と民話の収集のために現地に出向いた折には、そこで出会った方々の熱意や親切に触れることができました。また今では笑い話になっているアクシデントもたくさんあります。そして何より会に参加してよい仲間と出会い貴重な体験を積み重ねてこられたことが私の宝物になりました。絵を描きつづけてきて本当に良かったと思います。
　会では代表の青木緑さんはじめ会員同士で、これまでの活動や仲間との結束を大切にしながらも、もっと多くの皆さんに私たちの作品を知っていただけるよう活動の幅を広げていきたいと考えています。

ぼく（ぽんすけ）を守って！

ぽんすけ育成会事務局　古賀和人（戸隠地質化石博物館）

　信里には「シナイモツゴ」という希少淡水魚がいることをご存じだろうか？「シナイモツゴ」はいわゆる本名（標準和名）で淡水魚の場合、地域名や俗称の方が通りがよい。信里なら「ぽん」と言った方がわかるだろう。「ぽん」のオスはメスが卵を産みたくなるような基質（石や木など）に縄張りをもつ。訪れたメスが卵を産んだ後はオスが守り育てるイクメンとなる。そのため、ふ化率は高く、良い環境さえあれば簡単に増える。しかし、なぜか一面をコンクリートにしたくらいでいなくなったりもする。「ぽん」は簡単に池単位でいなくなるのだ。池の数＝生息数と考えると信里でも40未満、全国でも数百程度しか生息地が残っていない「ぽん」は数千羽いるライチョウよりも実はやばいのだ。「ぽん」を守りたいと2016年に発足した団体がある。「ぽんすけ育成会」だ。当時15年ほど信里で「ぽん」の調査をしてきた信州大学の研究チームが感じた危機感に地元の有志が応えたのだ。彼女は信里小学校でも20年近く子どもたちと「ぽん」について学ぶ授業を続けている。

2018年に行われたソウギョ、鯉の捕獲の様子

　その取り組みの中で数年前には小学校の「ぽん」のすむ池で外来種の駆除も試みられた。しかし、現在その池ではアメリカザリガニが増えている。外来種を取り除く作業は一朝一夕には進まない例でもある。継続していくためには地元の協力は欠かせない力となる。まずはぽんすけ育成会のことを覚えてほしい。地元の人が当たり前すぎて気づかない信里の自然の素晴らしさを「ぽん」を通して守る活動をしている団体である。

長野市初のワイナリー「有旅ワイナリー」の誕生

信里地域委員会　副委員長　島田賢一

　つい最近まで、信里の地にワイナリーができると誰が思ったでしょうか？私も、今から３年前に有旅地区でワイナリーの建設場所を探しているという話を聞いて、いったいどなたなのかと半信半疑でした。しかし、この度ご縁があり善光寺平が見渡せる信里の地に今年12月の完成を目指して「有旅ワイナリー」の建設が進んでいます。
　これからの信里にとって地域の活性化と遊休農地の利活用とこれは良い出来事ではないかと思っています。また、ブドウ棚の圃場景観やワイナリーもこれからの信里地域の大きな魅力になるものと期待をしています。
　有旅ワイナリーの誕生に併せて、ワインの美味しさや魅力を地域のより多くの方に知って頂くために、地域の応援団としてワインに関心がある有志の皆様にお集まりいただき、３月に「有旅ワイナリー倶楽部」も設立されました。４月１５日には倶楽部の皆様とご一緒に苗の定植作業に参加をしてきました。当日はあいにくの雨模様の天候でしたが３０名を超える参加者が各地から集まりました。今年定植したブドウの苗が収穫を迎えワインになるのは３年後と伺いました。
　今後は、有旅ワイナリー（株）様のご協力を頂き、「ワイン講座」や「ワインまつり」などの企画が出来れば良いと考えています。
　最後に、有旅ワイナリー建設にご理解を頂き用地のご提供を頂いた地権者の皆様や圃場のご提供を頂いた有旅・青池両地区の皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

有旅ワイナリー倶楽部の皆さん

圃場の景観

信里診療所だより

社会福祉部会より

　皆さんもっと気軽に診療所を利用しましょう。
　質問で「予約はできるのか？」「お薬はどのようになっている？」「肺炎球菌ワクチンの注射はできるの？」「帯状疱疹のワクチンは？」とありました。
　火曜、木曜の午後２時から３時までの１時間なので、来所の順番でとのことです。お薬はその場で用意できる物と処方箋で薬局へお願いする物があります。肺炎球菌ワクチン注射は前もって連絡がほしいとのこと、帯状疱疹ワクチンは申請が必要なので今年度は接種不可とのことです。
　　診療所職員の田中さん・徳武さんは、普段は信更診療所におられます。電話で相談してくださいとのことです。

　信更診療所の電話番号
　　０２６－２９９－２０１３　　田中さん　徳武さん

信里地域委員会公式WEBサイト　https://nobusato.net/
信里地域委員会の各種情報や資料、信里だより、
空き家情報など様々な情報を発信しています。

スマートフォン・タブレット
からもご覧いただけます。